

楽

Sapporo Education and Culture Hall News

RAKU

歴史の足音
ウインナ・オペレッタ

DIE FLEDERMAUS



札幌市教育文化会館

札幌市教育文化会館情報誌「楽(らく)」は舞台芸術を気軽に楽しんでいただきたいという思いを込めて名付けられました。



Johann Strauss II
Die Fledermaus
Vienna Operetta

こうもり[あらすじ]

1年前の仮装舞踏会、アイゼンシュタインはこうもりに扮装したまま酔って眠ってしまった友人のファルケを、街の広場に置き去りにして帰ってしまう。ファルケは物笑いの種になり「こうもり」とあだ名をつけられ、それ以後、住返しをしようと機会を狙っていた。

アイゼンシュタイン邸。役人侮辱罪で拘留されることが決まったアイゼンシュタイン。ファルケは刑務所への出頭前夜なのだから、「そりと夜会に出かけないかと話を持ちかけます。乗り気になったアイゼンシュタインは舞踏会に向かいますが、何も知らない妻のロザリンドは悲しげに見送ります。しかし、ファルケは皆に内緒でロザリンドも舞踏会に誘っていました。夫を送り出し、内心ウキウキしているロザリンドのもとに、かつての恋人アルフレードが登場。しかし、アイゼンシュタインと間違われ、アルフレードは収監されてしまいます。

オルロフスキー公爵邸。ファルケは公爵に、「これから」こうもりの復讐の茶番劇をお見せしますと伝える。ファルケは女中のアデーレを女優に扮装さ

せて舞踏会に呼び、アデーレを見たアイゼンシュタインはうちの女中にそっくりだと言う。アデーレはこんな華奢な女中がいますかとアイゼンシュタインを笑いものにする。仮面をつけ、ハンガリーの伯爵夫人に成りすましたロザリンドが登場。シャンパンを讀める歌が歌われる。アイゼンシュタインは妻と知らずに、懐中時計を使って伯爵夫人を口説こうとする。ロザリンドはうまく交わしながら、懐中時計を手に入れ、宴もたけなわとなる。

刑務所長の部屋。急いで出頭したアイゼンシュタイン。そこには自分の身代わりのアルフレードがいる。妻の浮気を知り怒り狂ってロザリンドを問いつめるが、ロザリンドも浮気の証拠の懐中時計を見せつける。すっかり立場が逆転してしまつたところにファルケがオルロフスキー公爵や一同を連れて登場。すべては「こうもりの復讐」だと明かす。ロザリンドは「すべてはシャンパンのいたずらね」と応じ、オルロフスキーは女優志望のアデーレの支援者になることを約束。すべてを水に流してシャンパンを讀める合唱で幕を閉じます。



さっぽろオペラ祭2012
北海道二期会 平成24年度オペラ公演

喜歌劇 **こうもり**
作曲 J. シュトラウスⅡ / 台本 C. ハフナー、R. ジュネー
訳詞 中山第一 / 構成・台詞 栗山昌良 / 全幕訳詞上演

2012年10月5日(金) 開場17:15 開演18:00
6日(土) 開場13:15 開演14:00

札幌市教育文化会館 大ホール

入場料 S席 10,000円 A席 8,000円
B席 6,000円 C席 4,000円

教文ホールメイト10%割引、Kitara Club 5%割引(教文プレイガイドのみ)
[チケット取り扱い] 教文・大丸藤井プレイガイド・道新プレイガイド・チケットびあにて発売中

北海道二期会ホームページ(PC・携帯)からもチケット購入ができます。

北海道二期会 www.hokkaido-nikikai.com/

歴史の足音 ウインナ・オペレッタ

舞い、歌い、笑う歌劇とワルツとの出会い。
それがウインナ・オペレッタ。

「会議は踊る、されど進まず」。
そんな言葉が生まれてしまうほど、踊りを誘う音楽、特にワルツが有名なオーストリア・ウインナ。モーツァルトを生んだこの国で、オペレッタはウインナ・ワルツの調べにのって花開きました。

そもそもオペレッタとはどんなものなのでしょうか。「小さいオペラ」という意味ですが、最初にオペレッタという言葉を使ったのはモーツァルトだそうです。今では「台詞と踊りのあるオーケストラ付きの軽歌劇や喜歌劇」のことをオペレッタと言いますが、モーツァルトの時代にはまだそこまで確立したジャンルではなかったもので、壮大なオペラをもっと気軽に、軽快に楽しむ、そんな意味合いで名づけたのかもしれない。

オペレッタが今のようになつて人気が出始めたのは19世紀のフランス。オットフェンバックによる『天国と地獄』という作品でした(運動会によくかかる、あの曲です)。ギリシャ神話をパロディ化した、男女の関係をおもしろおかしく描いたこの作品は大流行しました。

オペレッタが流行した背景には、時代の大きな流れが関係しています。産業革命、市民革命により一般市民は貴族に対抗する力を持ち始め、上流階級と同じように芸術文化を楽しむようになり、開放され、自由主義を謳歌する時代の雰囲気は、台詞よりも単純な筋書きでダンスや音楽など感覚的な要素が目立たせ、ハッピーエンドを約束するオペレッタを大

いに歓迎しました。そしてオペレッタの火種はオーストリアにも飛び火し、明るく楽しいオペレッタは、ウインナで軽やかなワルツに出会い、ウインナ・オペレッタとして開花するのです。

そのウインナ・オペレッタの代表とも言えるのがヨハン・シュトラウス二世作曲の「こうもり」。

大晦日から元旦にかけての仮装舞踏会で繰り広げられるにぎやかな歌や踊り、笑ってしまうような男女の駆け引きが楽しめるこの舞台は世界中のオペラハウスで上演されることとなり、その後ミュージカルの原型になつたとも言われています。「こうもり」に限らず、オペレッタがミュージカルに与えた影響は計り知れません。時代の流れの中、人々に求められて誕生したオペレッタ。今も人々を魅了し、観た人に幸せを運ぶ舞台に、いちど足を運んでみませんか。

「こうもり」主な登場人物

アイゼンシュタイン

裕福な銀行家。税務署の役人とトランプルを起し、刑務所に行くことに。変装した妻ロザリンドを伯爵夫人と思ひ込み、口説こうとする。

ファルケ

アイゼンシュタインの友人。酔っ払ってこうもりの変装をしたまま置き去りにされたことを根に持ち、復讐しようとする。

ロザリンド

アイゼンシュタインの妻。舞踏会にハンガリーの伯爵夫人と名乗り、仮面を被って成りすます。

アルフレード

ロザリンドの元恋人。アイゼンシュタインがいない間にロザリンドに会いに行くが、間違えられて刑務所に連れて行かれてしまふ。

アデーレ

アイゼンシュタイン邸の女中。女優志望。ファルケから舞踏会の招待状をもらい、女優に扮して参加する。

オルロフスキー公爵

ロシアの大貴族で、舞踏会の主催者。日々の生活に退屈しきつているところに、ファルケから「こうもりの復讐をお見せします」と告げられる。



教文ワークショップ レビュー Kyobun Work Shop

05

演劇、オペラ、ダンス。知れば知るほど深まっていく舞台の世界。「観ているだけじゃつまらない」「実際に体験してみたい」そんな皆さまの好奇心にお応えするのが札幌市教育文化会館のワークショップです。

カルチャーナイト 教文舞台探索のススメ

いつもの客席からとびだして、普段見られない舞台裏を覗いてみよう。
参加者が見学だけではなく実際に舞台をつくるワークショップを体験しました。

見る、踊る、体験する。盛りだくさんの内容に大人も子どもも夢中になって取り組みました。



カルチャーナイトとは、夜間なかなか利用できない市内の公共施設や文化施設を開放し、市民が地域の文化を楽しむ一歩限りのイベントです。札幌市教育文化会館でもこれまで何度か舞台や照明、ステージ裏を見学するバックステージツアーを開催しましたが、今回は見学以外にも、実際にツアー参加者に舞台づくりを経験してもらう企画を盛り込みました。

司会の柳生たみさんと、教文コミュニケーションダンス部ファシリテーターがツアーコンダクターとして参加。

まず最初に教文コミュニケーションダンス部によるダンスワークショップが開かれました。教文35周年を記念してつくられた「外郎売」の振り付けを教えてもらいながら、役者やアナウンサーが訓練のために使う歌舞伎の「外郎売」の早口言葉をオリジナルの音楽にのせ、歌舞伎の動きを取り入れて踊ります。

ワークショップのあとは3チームに分かれて普段見ることのできない調光室や音響室、舞台などで解説を聞きながら見学。その後自分担当の舞台づくりを開始しました。一番人気は照明係。実際に機械を動かして舞台が明るくなったり暗くなったりすることに子どもたちは大喜びでした。

参加者からダンサーも募り、幕開けから上演、幕引きまでのひととおりの流れをプロの舞台で体験。

「みんなでひとつの舞台を作ることができて楽しかった」「プロの方に機械の動かし方を教えてもらって面白かった」「ひとつのステージをつくるのがこんなに大変とは知らなかった、またやってみよう」など、大きな刺激になったようです。

企画の担当職員からは、「子どもたちにとって将来、舞台に立ったり舞台づくりに参加するきっかけになれば。案内する方も、参加した方も一体となって楽しいイベントになりました」との声もありました。



SAPPORO OPERA FES. 2012

さっぽろオペラ祭

オトナもコドモも、それぞれのオペラ。

今年で7年目を迎えるさっぽろオペラ祭。

オペラを大人から子どもまで楽しんでいただける、さまざまな公演やワークショップを開催しています。
フルオーケストラのオペラからワンコインコンサートまで、もっと身近にオペラを感じて下さい。

岩河智子

「唱歌の学校」

& 子どものための音楽



唱歌と童話をつづって描く、 笑い涙のオリジナル作品

明治時代、子どもたちのために作られた「唱歌」。その中にはスコットランドのメロディーに日本語の詩をつけたものがたくさんありました。唱歌や童謡29曲のメロディーを織り込んで、スコットランドからの転校生と、日本の小学生たちの笑いあり涙ありの物語が展開されるオペラ。1998年以来、道内や首都圏で上演を重ねてきた、音楽と心の交流の大切さを感じさせてくれる舞台です。

9月7日(金) 13:30 開場 14:00 開演
8日(土) 18:00 開場 18:30 開演

小ホール

札幌室内歌劇場 www.opera.or.jp/

E.フンバーディンク

「ヘンゼルとグレーテル」

全幕 (原語上演/字幕スーパー付)



兄弟愛、家族愛、 そして子どもたちの成長の物語

世界中で愛され、クリスマスの季節に上演されるオペラ「ヘンゼルとグレーテル」。お菓子の家に迷い込んだ2人の子どもが、兄妹の力を合わせて魔女に立ち向かいます。兄弟愛、家族愛、神への祈りと感謝に包まれた子どもたちの成長の物語。愛する家族と、恋人と、仲間と一緒に素敵なクリスマスの思い出にぜひご覧ください。

12月21日(金) 17:30 開場 18:00 開演
22日(土) ① 12:30 開場 13:00 開演
② 16:30 開場 17:00 開演

小ホール

札幌オペラスタジオ www.sos-opera.com/

500 yen モーニングコンサート

もっと気軽にオペラを楽しもう!

ママと子どものはじめての音楽会

ママの子育て応援 赤ちゃん連れでも大丈夫!
親子でたのしい音楽会♪

9月27日(木) 10:30 開場 11:00 開演 小ホール

出演/札幌オペラスタジオ 全席自由 500円

※保護者同伴で、0歳のお子様からご入場OK。
※座席を使用する場合は要チケット。

オペラにもっと足を運んでいただきたい。小さなお子様連れでものびのび楽しめる音楽会や名曲を集めたコンサートをワンコインでお贈りします。

微笑みコンサート vol.2

幅広い年代の方にお楽しみいただける
歌曲、オペラの名曲をお届けします。

10月27日(土) 10:30 開場 11:00 開演 小ホール

出演/北海道二期会 全席自由 500円

※未就学児の入場はご遠慮ください。